

## トランスジェンダー

2023年8月26日

産業保健の基盤となる医学的知見(そもそも論)について概説しています。第二回は「トランスジェンダー」です。医学では「性的違和gender dysphoria」という名称が使われています(「性同一性障害gender identity disorder」とも言います)が、要は「生殖器の形態・機能と性の認識(性自認)が異なる」というものです。

多くの人が「男女は遺伝子で決まる」と思っているようですが、遺伝子が決めるのは生殖器をつくる場所までです。実は男性の精巣も女性の卵巣も脳下垂体から出る性腺刺激ホルモンにより男性ホルモンと女性ホルモンの両方を分泌しています。性ホルモンの代表であるエストロゲンの血中濃度は成人男性と閉経期の女性で同程度です。男性ホルモンの代表であるテストステロンは女性では男性の10～20分の1程度ですが、卵細胞の成熟に不可欠です。

一方、脳が自分の性をどう認識するかは「胎生期から出生後早期に脳がどれほどの性ホルモンに曝露されたか」によって決まります。特に「妊娠20週あたりまでの男性ホルモンへの曝露」が支配的です。「妊娠中にあまり怒ると気の強い子が生まれる」という俗説がありますが、あながち嘘とは言えません。また、大豆には女性ホルモンに似たイソフラボンが多く含まれているので、妊婦は過剰に摂取しないように指導されています(サプリメントなどを使用しなければ問題はありません)。幼年期に達したあとは脳はホルモン分泌量の影響をほとんど受けず、性意識は生殖器の有無(形成手術やホルモン剤の投与)にかかわらず生涯変わりません。

ともあれ、頭の中の性別は男女二つにはっきり分かれるものではなく、二峰性ではあるものの一続きのスペクトルです(添付イラスト)。近年セクハラがニュースになりますが、性的指向も淡泊な草食系からギラギラの肉食系まで連続的に分布するのです。

